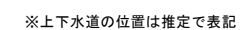
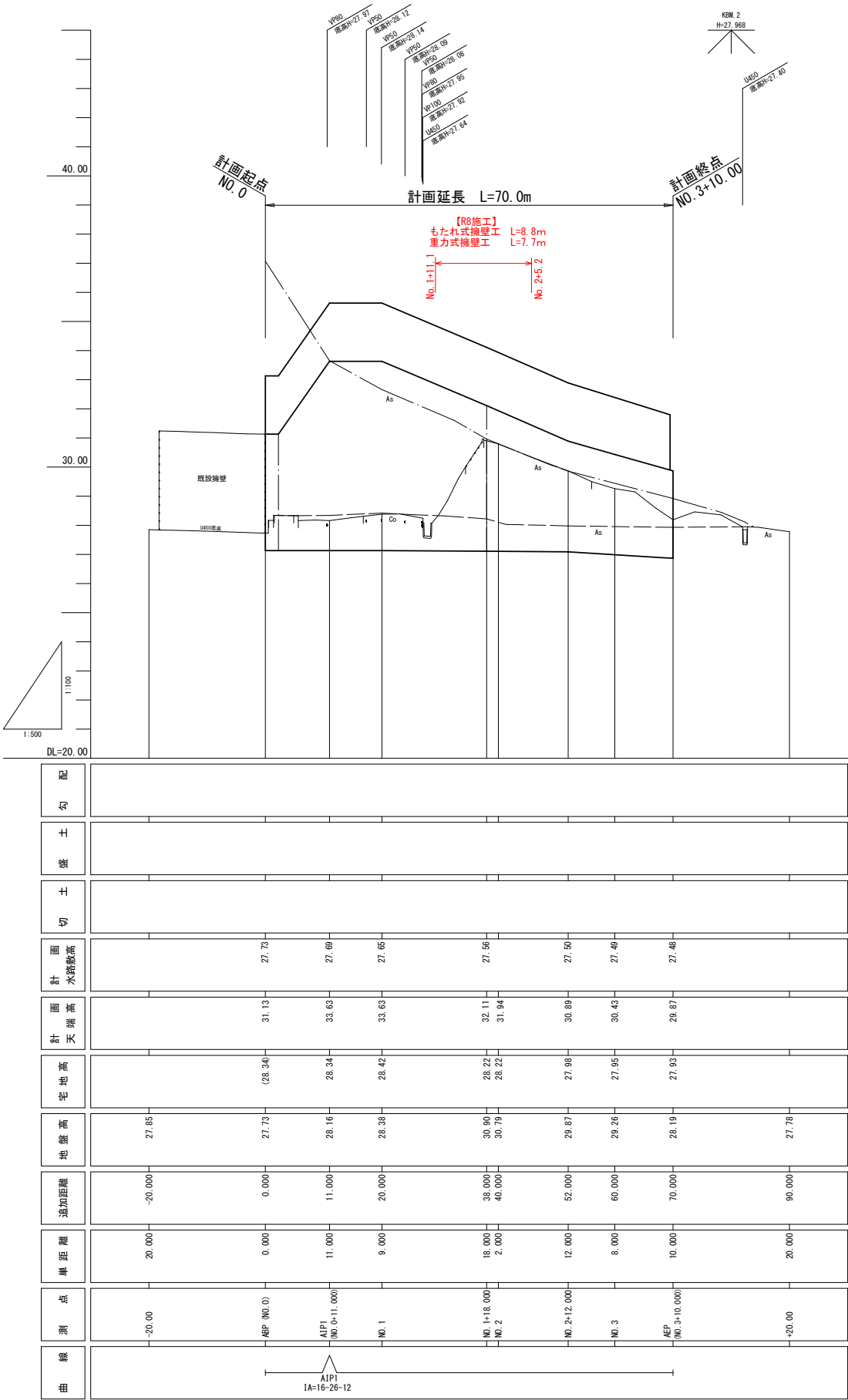


✦ 藤枝市 瀬古一丁目 地内



工事名	令和8年度（県費） 川原平（a）急傾斜地崩壊対策工事		
図面名	平面図	縮尺	図示 （ ）内はA3縮小
設計年月	令和 8 年 5 月	図面番号	11-1
藤枝市都市建設部基盤整備局河川課			

縦断面図 H=1 : 500 (1 : 1000)
V=1 : 100 (1 : 200)

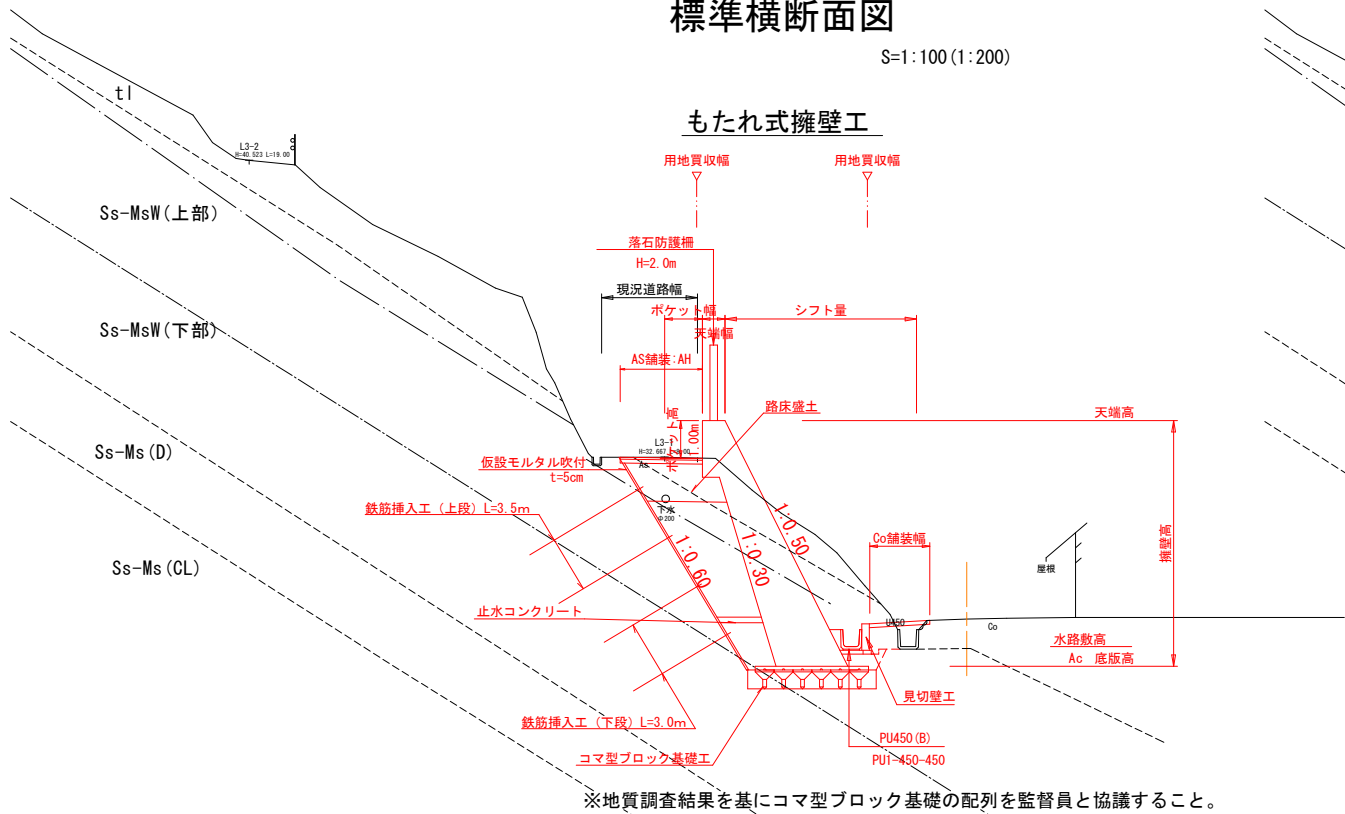


工事名	令和8年度（県費） 川原平（a）急傾斜地崩壊対策工事		
図面名	縦断面図	縮尺	図示 ()内はA3縮小
設計年月	令和 8 年 5 月	図面番号	11-2
藤枝市都市建設部基盤整備局河川課			

標準横断面図

S=1:100 (1:200)

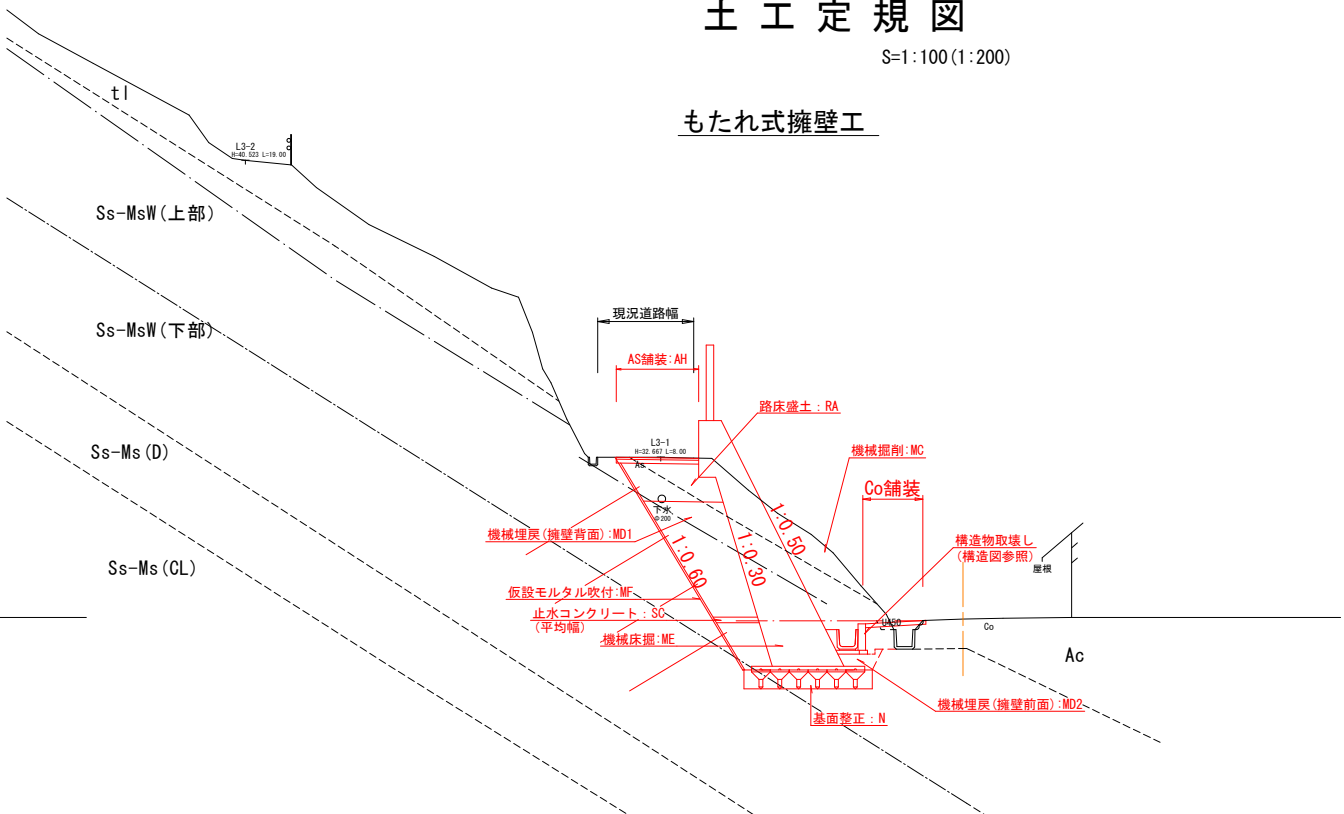
もたれ式擁壁工



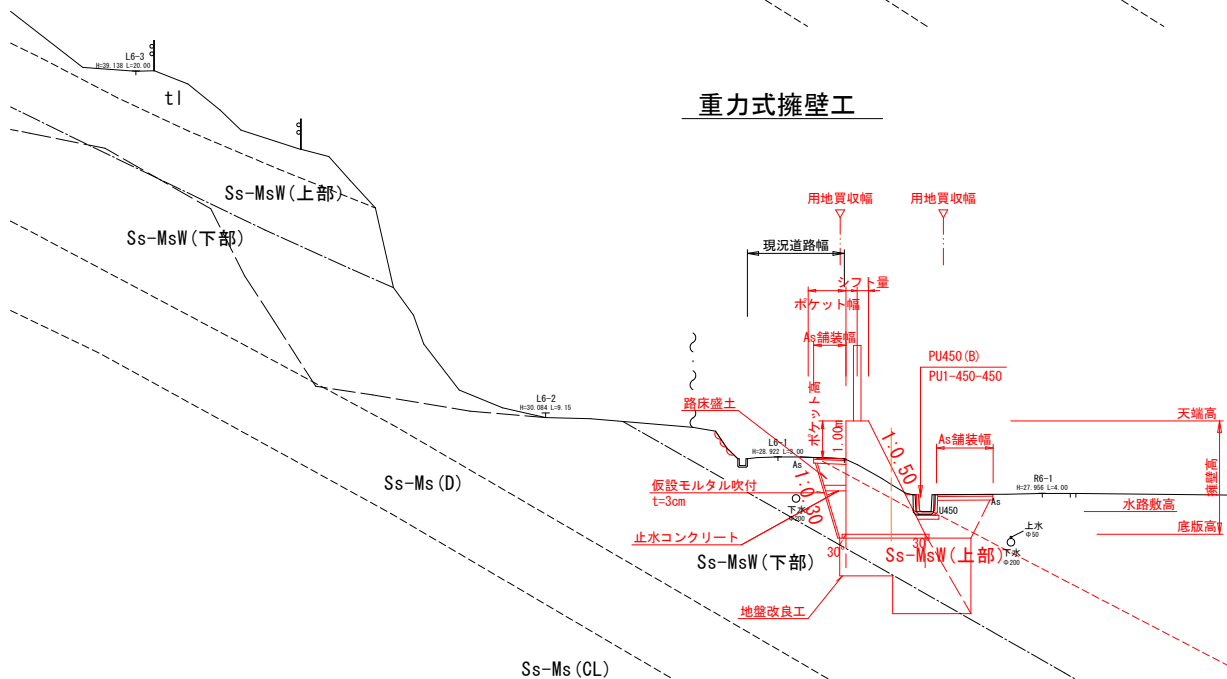
土工定規図

S=1:100 (1:200)

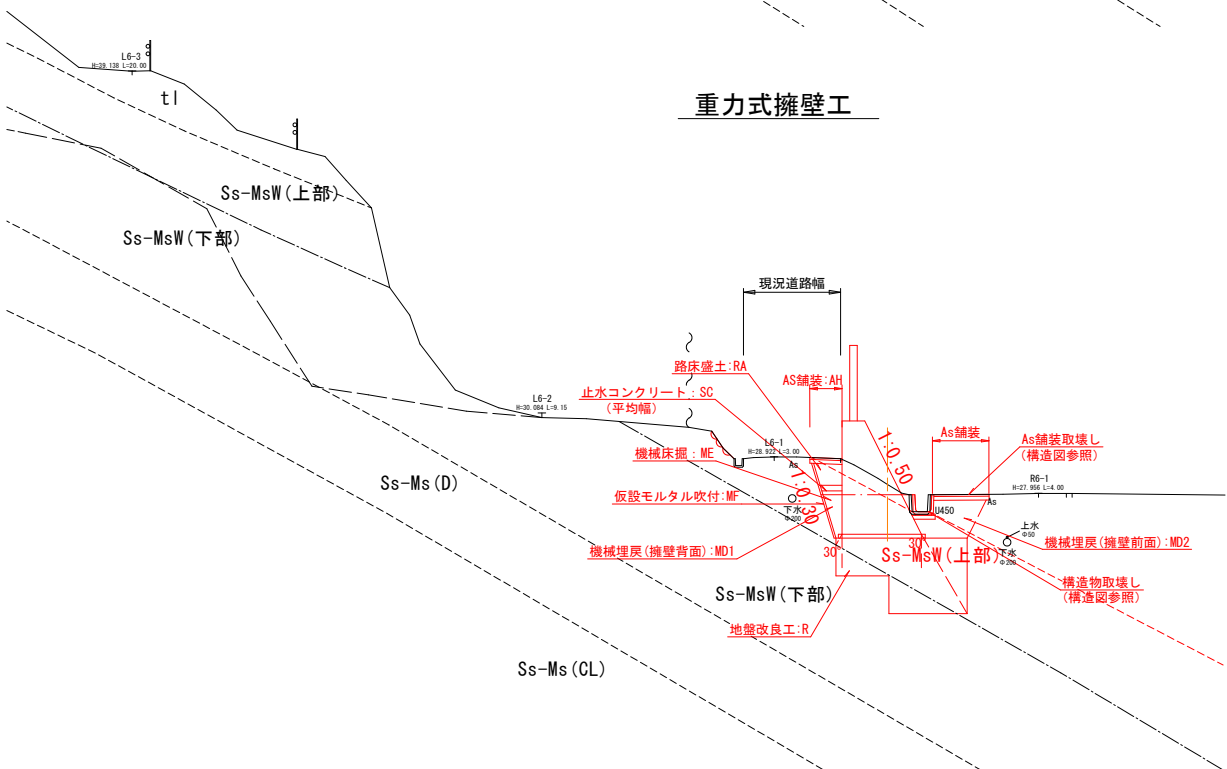
もたれ式擁壁工



重力式擁壁工



重力式擁壁工



土質定数一覧 凡 例

地質時代・地層名		土層・層相	記号	N値 (Nd値)	単位体積重量 γ (KN/m ²)	粘着力 c (KN/m ²)	せん断抵抗角 ϕ (°)	許容支持力 q_a (N/m ²)	切土法面 適正勾配	
第四紀 完新世	表土	粘土質砂礫 礫混じり粘土	t1	(0~10)	18	0	35	—	1:1.2以下	崩壊土
	沖積堆積層	砂質シルト	Ac	(0.5~20)	14	15以下	0	—	—	
第三紀 中新世	大井川層群	強風化砂岩泥岩互層	Ss-MsW上部	5~18	20	27	33	60	1:1.2	支持層
			Ss-MsW下部	20~49	20	44	37	200	1:1.2	
		砂岩泥岩互層	Ss-Ms (D)	29~39	20	48	37	300	1:1.2	
			Ss-Ms (CL)	50以上	21	86	41	600	1:0.8	

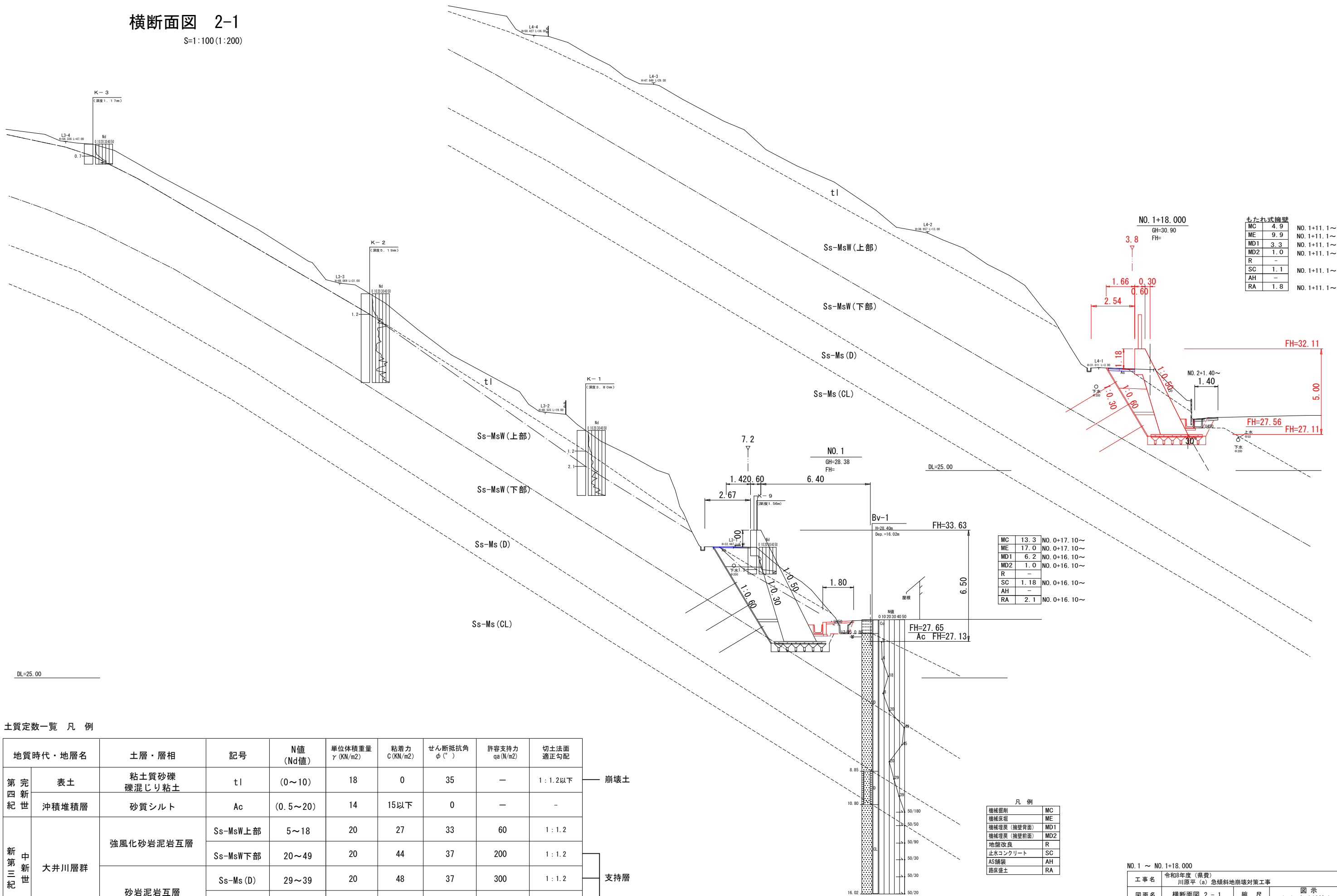
※地層線は、地質調査より横断面図に反映しているが、ボーリングや簡易貫入試験箇所以外は推定しているため
施工時において横断面図と異なる地層が確認された場合は監督員と協議すること。

凡 例	
機械掘削	MC
機械床掘	ME
機械埋戻 (擁壁背面)	MD1
機械埋戻 (擁壁前面)	MD2
基面修正	N
地盤改良工	R
止水コンクリート	SC
モルタル吹付	MF
AS舗装	AH
路床盛土	RA

工事名	令和8年度(県費) 川原平 (a) 急傾斜地崩壊対策工事		
図面名	標準横断面図・土工定規図	縮尺	図示 ()内はA3縮小
設計年月	令和8年5月	図面番号	11-3
藤枝市都市建設部基盤整備局河川課			

横断面図 2-1

S=1:100 (1:200)



MC	4.9	NO. 1+11.1~
ME	9.9	NO. 1+11.1~
MD1	3.3	NO. 1+11.1~
MD2	1.0	NO. 1+11.1~
R	-	
SC	1.1	NO. 1+11.1~
AH	-	
RA	1.8	NO. 1+11.1~

MC	13.3	NO. 0+17.10~
ME	17.0	NO. 0+17.10~
MD1	6.2	NO. 0+16.10~
MD2	1.0	NO. 0+16.10~
R	-	
SC	1.18	NO. 0+16.10~
AH	-	
RA	2.1	NO. 0+16.10~

機械掘削	MC
機械圧入	ME
機械埋戻 (擁壁背面)	MD1
機械埋戻 (擁壁前面)	MD2
地盤改良	R
止水コンクリート	SC
AS舗装	AH
路床盛土	RA

NO. 1 ~ NO. 1+18.000

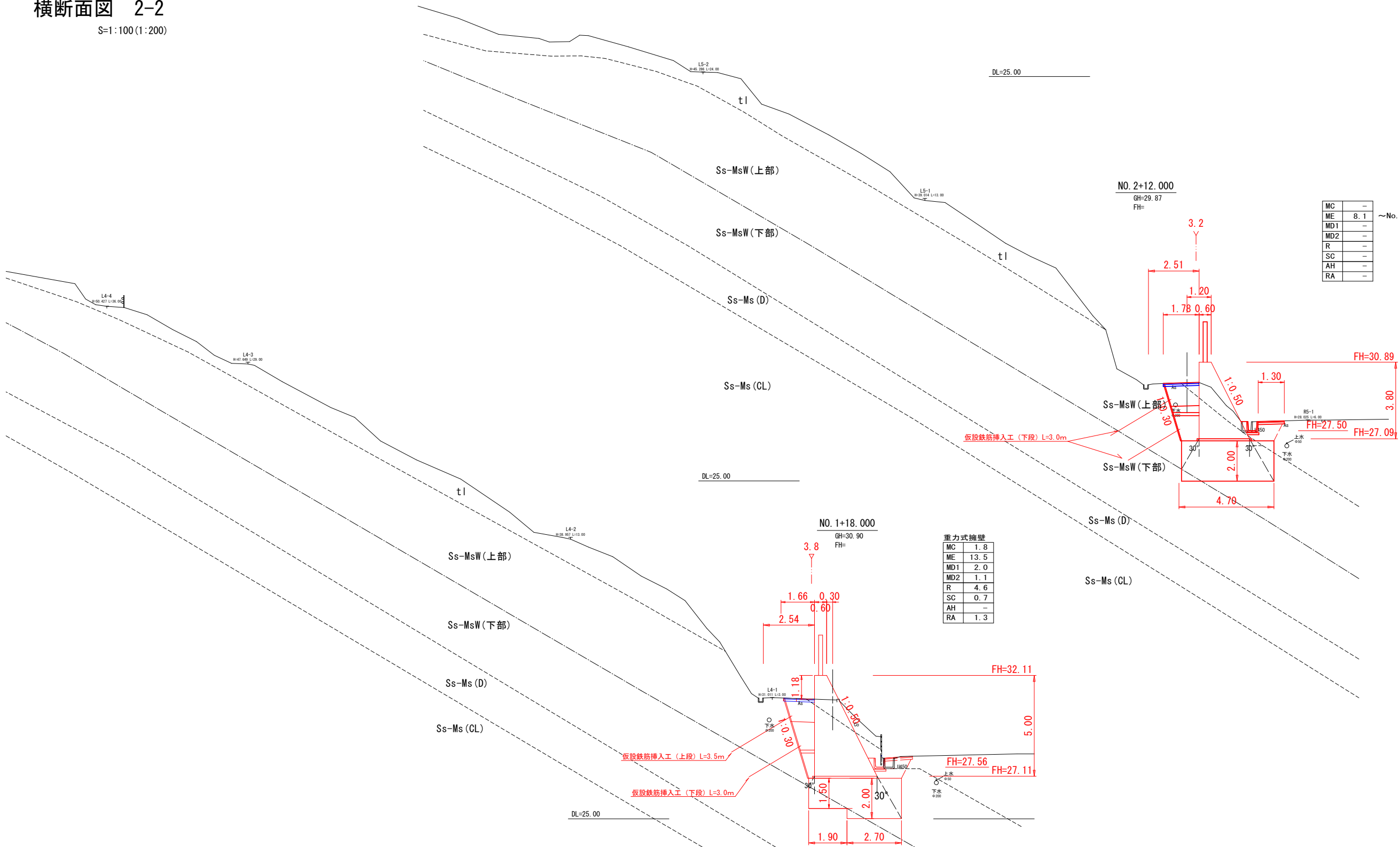
工事名	令和8年度 (県費) 川原平 (a) 急傾斜地崩壊対策工事		
図面名	横断面図 2-1	縮 尺	図 示 () 内はA3縮小
設計年月	令和 8 年 5 月	図面番号	11-4

藤枝市都市建設部基盤整備局河川課

※上下水道の位置及び深さは推定で表記

横断面図 2-2

S=1:100 (1:200)



MC	—
ME	8.1
MD1	—
MD2	—
R	—
SC	—
AH	—
RA	—

～No. 2+9.0

重力式擁壁	
MC	1.8
ME	13.5
MD1	2.0
MD2	1.1
R	4.6
SC	0.7
AH	—
RA	1.3

土質定数一覧 凡 例

地質時代・地層名		土層・層相	記号	N値 (Nd値)	単位体積重量 γ (KN/m2)	粘着力 C (KN/m2)	せん断抵抗角 φ (°)	許容支持力 qa (N/m2)	切土法面 適正勾配	
第四新紀世	表土	粘土質砂礫 礫混じり粘土	t1	(0～10)	18	0	35	—	1:1.2以下	崩壊土
	冲積堆積層	砂質シルト	Ac	(0.5～20)	14	15以下	0	—	—	
新第三紀	中新世	大井川層群	Ss-MsW上部	5～18	20	27	33	60	1:1.2	支持層
			Ss-MsW下部	20～49	20	44	37	200	1:1.2	
		砂岩泥岩互層	Ss-Ms(D)	29～39	20	48	37	300	1:1.2	
			Ss-Ms(CL)	50以上	21	86	41	600	1:0.8	

凡 例	
機械掘削	MC
機械床掘	ME
機械埋戻 (擁壁背面)	MD1
機械埋戻 (擁壁前面)	MD2
地盤改良	R
止水コンクリート	SC
AS舗装	AH
路床盛土	RA

NO. 1+18.000 ～ NO. 2+12.000

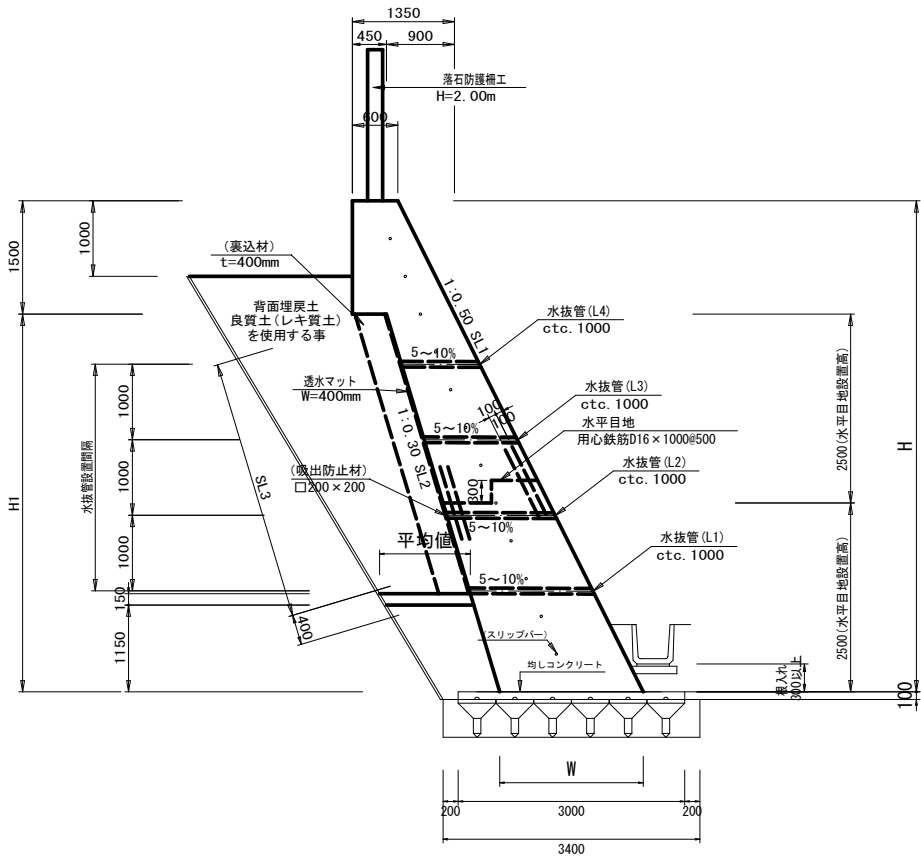
工事名	令和8年度(県費) 川原平 (a) 急傾斜地崩壊対策工事		
図面名	横断面図 2-2	縮 尺	図 示 () 内はA3縮小
設計年月	令和 8 年 5 月	図面番号	11-5
藤枝市都市建設部基盤整備局河川課			

※上下水道の位置及び深さは推定で表記

もたれ式擁壁構造図

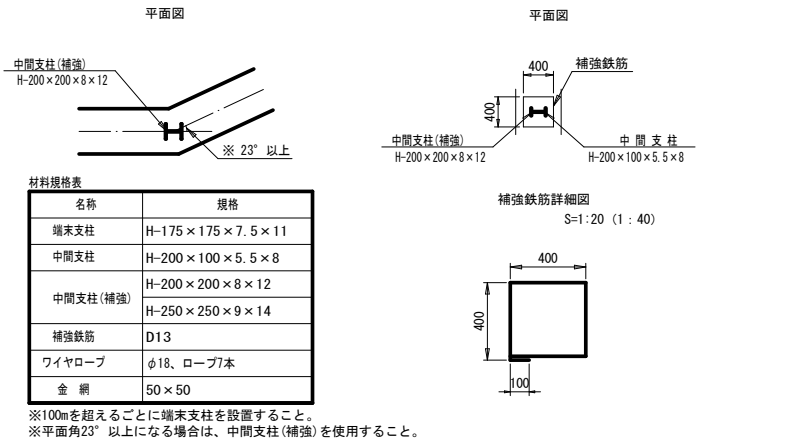
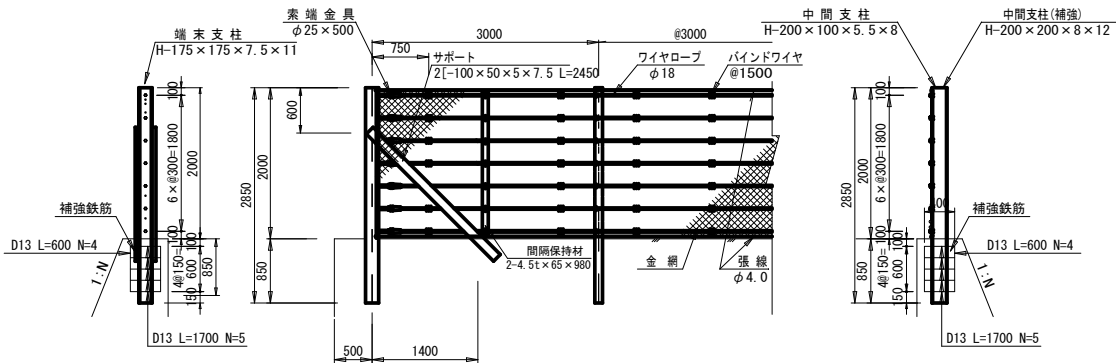
もたれ式擁壁工

標準図 S=1:50 (1:100)



落石防護柵工

S=1:50 (1:100)



材料表					1箇所当り
名称	規格	計算式	単位	数量	
補強鉄筋	D13	(0.60×4+1.70×5)×0.995	kg	10.85	

寸法表 もたれ式擁壁工

単位: mm

高さ (H)	H1	SL1	SL2	SL3	W	水平目地設置段数 (n)	透水マット設置段数 (n)	水抜管設置段数 (n)	L1	L2	L3	L4
4000	2500	4470	2610	850	1400	1	2	2	1130	930	-	-
5000	3500	5590	3650	1900	1600	1	3	3	1330	1130	930	-
6500	5000	7270	5220	3460	1900	2	4	4	1630	1430	1230	1030

※ 基礎形式は、地盤状況に応じ変更すること。（別途：擁壁基礎工を参照）
止水コンクリートの打設位置及び幅は、水路敷高・背面状況に応じて調整すること。
背面の湧水が多い箇所は透水マットではなく裏込材（栗石）による対応を施し、水抜管を2m2に1箇所程度設置すること。
擁壁背面の切土勾配は1:0.60とし、仮設モルタル吹付（t=5cm）を行う。
水平打継目地は、直高2.5mを標準とし、平均高3.0m以下の場合は設置しない。
水抜管と水平目地が干渉する場合、水抜管の位置を調整すること。

材料表 もたれ式擁壁工

10m当り

名称	規格	単位	もたれ式擁壁工						摘要
			H=4.0m	H=5.0m	H=6.5m	H=4.0～6.5m	H=5.0～6.5m		
コンクリート	18-8-40BB W/C60%以下	m3	43.375	58.375	84.625	64.000	71.500		
型枠	無筋	m2	85.80	107.40	139.90	112.85	123.65		
均しコンクリート	18-8-25BB	m3	3.000	3.000	3.000	3.000	3.000	t=10cm	
簡易型枠		m2	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00		
止水コンクリート	18-8-25BB	m3	横断面図にて算出						
用心鉄筋	D16	kg	124.8	124.8	249.6	124.8	124.8		
目地材	エラストイト	m2	4.34	5.84	8.46	6.40	7.15	t=20mm	
スリッパ	膨張目地	本	7	9	12	10	11	φ25	
スリッパ	収縮目地	本	7	9	12	10	11	φ16	
水抜管	VP75	m	20.60	33.90	53.20	36.90	43.55		
透水マット	W=400mm	m	18.50	29.00	79.20	31.55	63.60		
足場工	単管傾斜	掛m2	44.70	55.90	72.70	58.70	64.30		
簡易型枠		m2	3.00	3.00	6.00	3.00	3.00	水平目地部	
(裏込材)	栗石50～150mm	m3	5.000	9.200	15.440	10.220	12.320	t=400mm	
(吸出防止材)	9.8KN/m	m2	0.80	1.20	1.60	1.20	1.40	t=10mm	

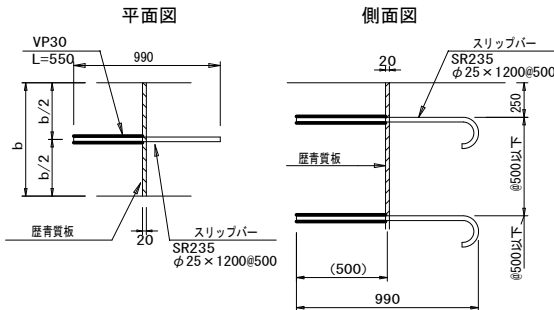
計算式

{ (0.60+1.35) × 1/2 × 1.50+
(0.90+W) × 1/2 × H1 } × 10.0
(SL1+SL2+1.50) × 10.0
3.0 × 10.0 × 0.10
0.10 × 1 × 10.0
平均値 × 0.15 × 10.0
(1.00 × 4 × 20) × 1.56 × n段
(0.60+1.35) × 1/2 × 1.50+
(0.90+W) × 1/2 × H1
H/0.5-1
H/0.5-1
(L1+L2+L3+L4) × 10
SL3 × 2 × 10+10.0
SL1 × 10.0
n × 0.30 × 10.0
(SL3+0.40) × 0.40 × 10.0
0.20 × 0.20 × n × 10.0
※nは透水マット設置箇所

目地工

膨張目地

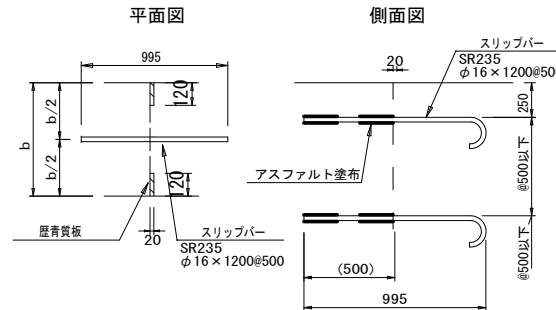
S=1:20 (1:40)



※膨張目地は、10m間隔に垂直に設置すること。

目地工

収縮目地



※収縮目地は、5m間隔に垂直に設置すること。

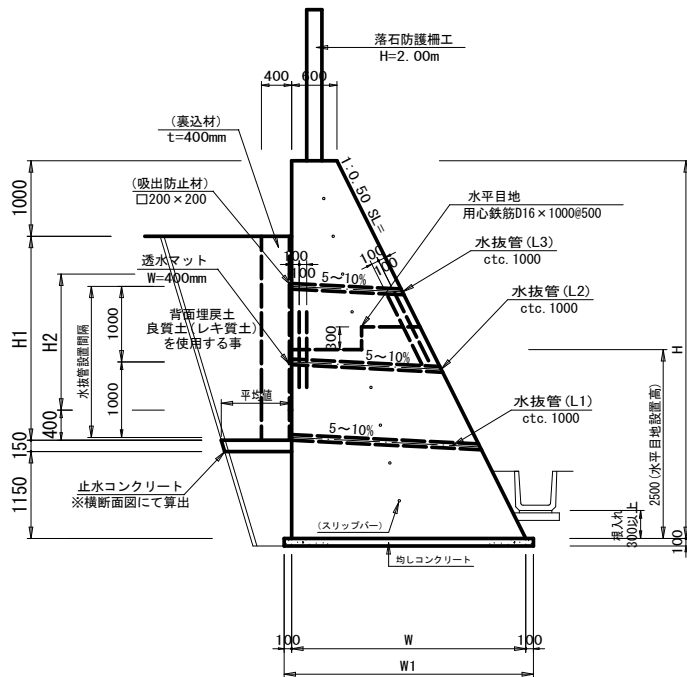
工事名	令和8年度（県費） 川原平（市）急傾斜地崩壊対策工事		
図面名	もたれ式擁壁標準図 土工工標準図	縮尺	図示 （ ）内はA3縮小
設計年月	令和8年5月	図面番号	11-6

藤枝市都市建設部基盤整備局河川課

重力式擁壁工

標準図

S=1 : 50 (1 : 100)



寸法表 (重力式擁壁工 1:0.50)

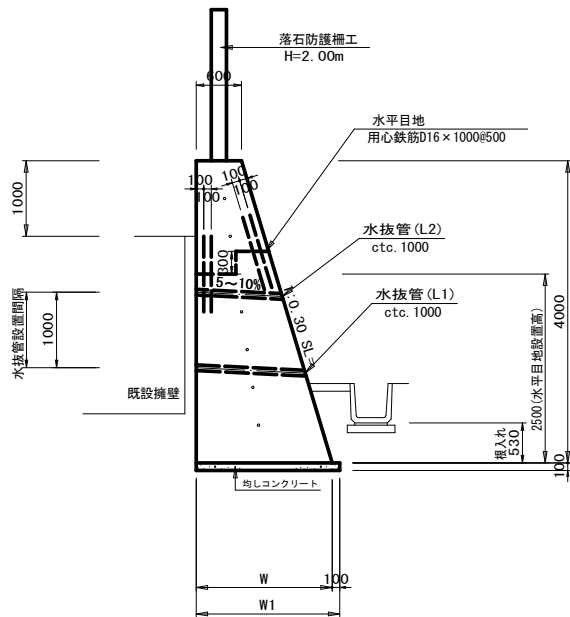
高さ (H)	H1	H2	SL	W	W1	水平目地設置段数 (n)	水抜管設置段数 (n)	L1	L2	L3	摘 要
3000	700	—	3350	2100	2300	—	1	1470	—	—	
3800	1500	800	4250	2500	2700	1	2	1880	1370	—	
5000	2700	1800	5590	3100	3300	1	3	2500	1980	1470	

※ 基礎形式は、地盤状況に応じ変更すること。（別途、擁壁基礎工を参照）
止口コンクリートの打設位置及び幅は、水路数・背面状況に応じて調整すること。
背面の湧水が多い箇所は透水マットではなく裏込材（卵石）による対応を施し、水抜管を2mに1箇所程度設置すること。
擁壁背面の切土勾配は1:0.30とし、仮設モルタル吹付（t=5cm）を行う。
水平打継目地は、直高2.5mを標準とし、平均高3.0m以下の場合は設置しない。
水抜管と水平目地が干渉する場合、水抜管の位置を調整すること。

重力式擁壁工

既設擁壁部

S=1 : 50 (1 : 100)



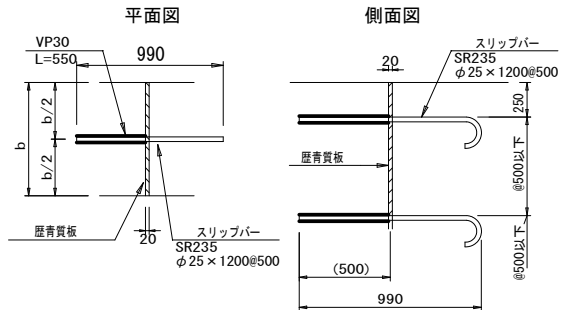
寸法表 (重力式擁壁工 既設擁壁部 1:0.30)

[illegible]

※ 基礎形式は、地盤状況に応じ変更とする。（別途：擁壁基礎工を参照）
水平打型目地の構造は鋸形とし、表裏それぞれ10cm程度の位置に用心鉄筋（D16×1.0m程度）を500mm間隔に配筋する。
既設擁壁に水配管がある場合は、既設に継接する計画とする。既設擁壁に水配管がない場合は、既設擁壁をコア抜き設置すること。（3m2に1箇所以上設置）

目地工

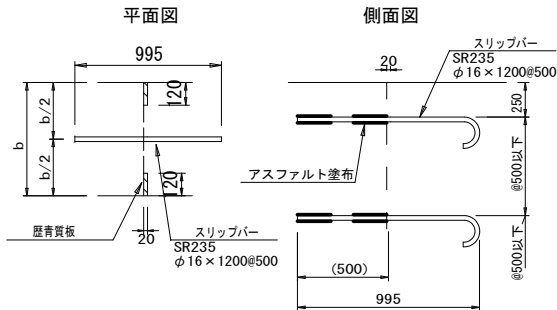
膨張目地



※膨張目地は、10m間隔に垂直に設置すること。

目地工

收縮目地



※収縮目地は、5m間隔に垂直に設置すること。

									10m当り	
名称	規格	単位	重力式擁壁工					重力式擁壁工(既設擁壁部)	摘 要	
			1:0.50					1:0.30		
			H=3.0m	H=3.8m	H=5.0m	H=3.0～3.8m	H=3.8～5.0m	H=4.0m		
コンクリート	18-8-40BB	m3	40.500	58.900	92.500	49.700	75.700	48.000		
型枠	無 筋	m2	63.50	80.50	105.90	72.00	93.20	51.80		
均しコンクリート	18-8-25BB	m3	2.300	2.700	3.300	2.500	3.000	1.900	t=10cm	
簡易型枠		m2	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	1.00		
止水コンクリート	18-8-25BB	m3	横断面図にて算出							t=15cm
用心鉄筋	D16	kg	-	124.8	124.8	62.4	62.4	124.8		
目地材	エラストイト	m2	4.05	5.89	9.25	4.97	7.57	4.80	t=20mm	
スリッパバー	膨脹目地	本	5	6	9	5	7	7	φ25	
スリッパバー	収縮目地	本	5	6	9	5	7	7	φ16	
水接管	VP75	m	14.70	32.50	59.50	23.60	46.00	25.90		
透水マット	W=400mm	m	10.00	18.00	28.00	14.00	36.00	-		
足場工	単管傾斜	掛m2	33.50	42.50	55.90	38.00	49.20	41.80		
簡易型枠		m2	-	3.00	3.00	1.50	3.00	3.00	水平目地部	
(裏込材)	栗石50～150mm	m3	2.80	6.00	10.80	4.40	8.40	-	t=400mm	
(吸出防止材)	9.8KN/m	m2	0.40	0.80	1.20	0.60	1.00	-	t=10mm	

計算式(標準)

$$(0.60+W) \times 1/2 \times H \times 10.0$$
 $(H+SL) \times 10.0$
$$W1 \times 10.0 \times 0.10$$
$$0.10 \times 2 \times 10.0$$

平均值 $\times 0.15 \times 10.0$

$$(1.00 \times 4 \times 20) \times 1.56 \times n$$
$$(0.60+W) \times 1/2 \times H$$

H/0. 5-1

H/0.5-1

$$(L1+L2+L3) \times 10$$

10. $0 + H_2 \times 2 \times 10$

SL × 10.0

 $n \times 0.30 \times 10.$

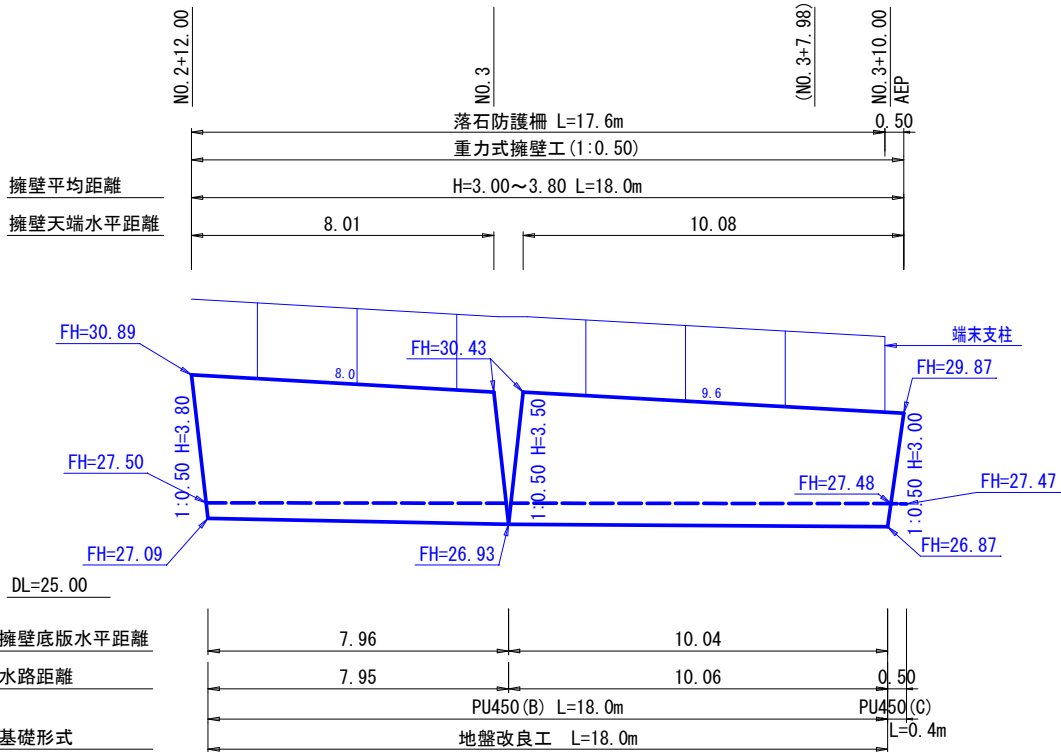
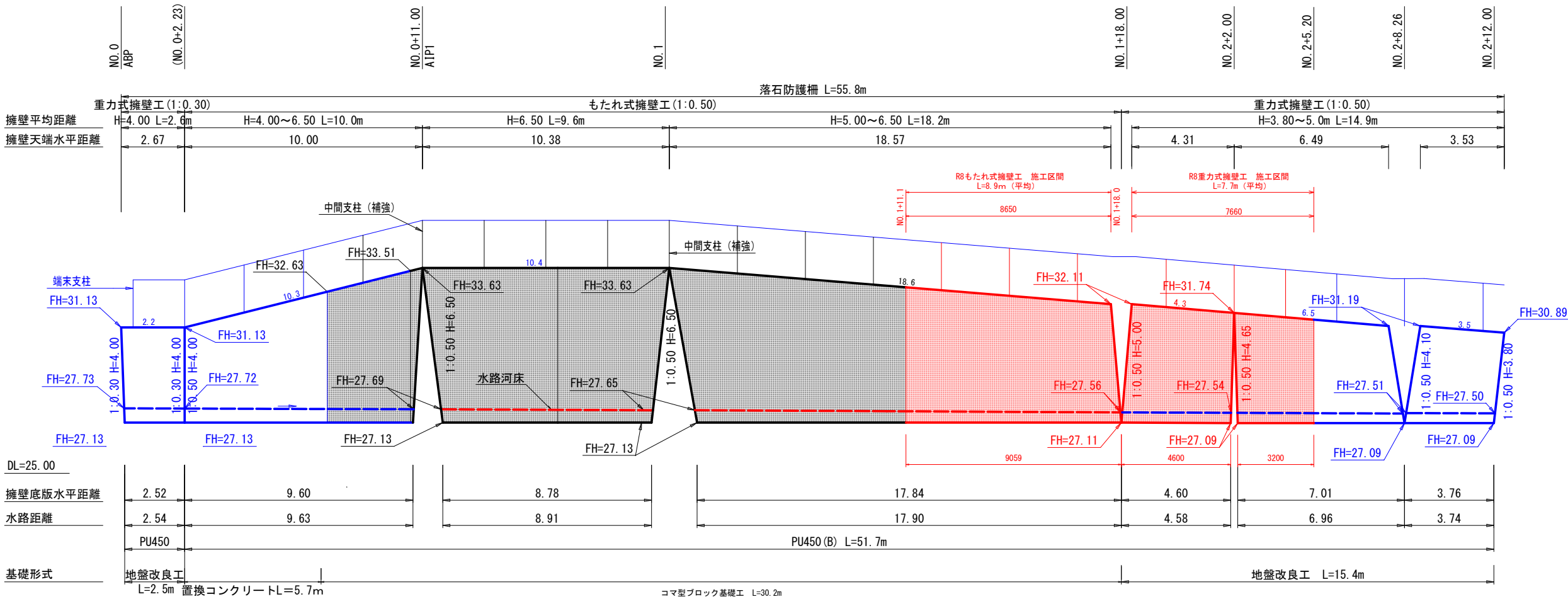
H1 × 0.40 × 10.0

0.20×0.20×n×10.0
※nは透水フロート設置箇所

工 事 名	令和8年度（県費） 川原平（a）急傾斜地崩壊対策工事		
図 面 名	重力式擁壁工	縮 尺	図 示
設計年月日	令和 8 年 5 月	図面番号	11-7
藤枝市都市建設部基盤整備局河川課			

※ () 書きの縮尺は、A3縮小版とした際の縮尺である。

擁壁工展開図
S=1:100 (1:200)



数量表					
名 称	規 格	単 位	数 量	R7施工数量	
端末支柱	H-175×175×7.5×11	本	2	—	
中間支柱	H-200×100×5.5×8	本	25	6	
中間支柱(補強)	H-200×200×8×12	本	1	—	
中間支柱(補強)	H-250×250×9×14	本	1	—	
ロープ・金網	φ18、ロープ7本、50×50	m	73.4	—	

数量表				
工 種	規 格	単位	数 量	R8施工数量
重力式擁壁工 (1:0.30)	H=4.0m	m	2.6	—
もたれ式擁壁工 (1:0.50)	H=4.0~6.5m	〃	10.0	—
	H=6.5m	〃	9.6	—
	H=5.0~6.5m	〃	18.2	8.9
重力式擁壁工 (1:0.50)	H=3.0~3.8m	〃	18.0	—
	H=3.8~5.0m	〃	14.9	7.7
落石防護柵工	H=2.0m	〃	73.4	—
基礎形式	地盤改良基礎工	〃	35.9	9.6
	コマ型ブロック基礎工 W=3.40m	m	36.2	9.1
	PU450 (A)	m	2.5	—
水路工	PU450 (B)	〃	69.7	26.8
	PU450 (C)	〃	0.4	—

※落石防護柵において平面角23° 以上の場合は中間支柱（補強）を使用すること。

※（ ）は、測量中心線より垂直方向に横断した測点である。
擁壁平均距離＝（擁壁天端水平距離+擁壁底版水平距離）×1/2

工 事 名	令和8年度（県費） 川原平（a）急傾斜地崩壊対策工事		
図 面 名	擁壁工展開図	縮 尺	図 示 （ ）内はA3縮小
設計年月	令和 8 年 5 月	図面番号	11-8
藤枝市都市建設部基盤整備局河川課			

擁壁基礎工構造図

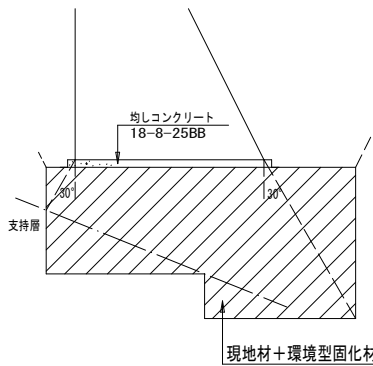
擁壁基礎工

標準図

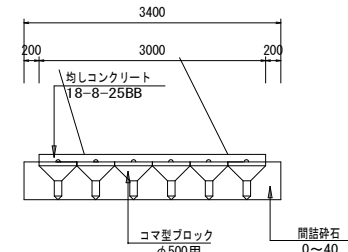
S=1:50 (1:100)

地盤改良基礎

環境型固化工を使用



コマ型ブロック基礎



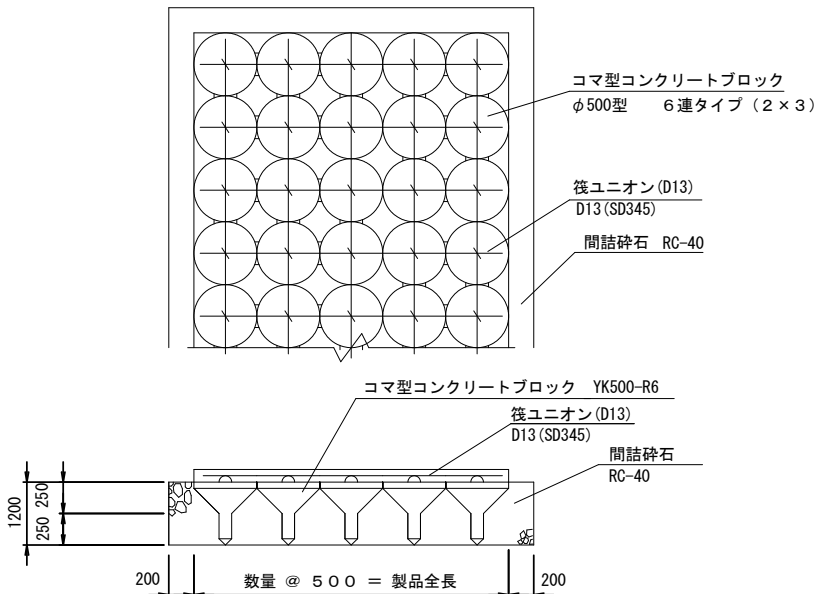
数量表		10m当り	
名称	規格	単位	数量
コマ型ブロック	φ500 6連型	個	20
鉄ユニオン	SD345 D13	kg	119
間詰砕石	粒径 0~40mm	m3	10

※地質調査結果を基にコマ型ブロック基礎の配列を監督員と協議すること。

数量表		10m当り	
名称	規格	単位	数量
地盤改良基礎	混合深さ H=2.0m	m3	89
仮囲い	丸パイプ・H形鋼	m	10

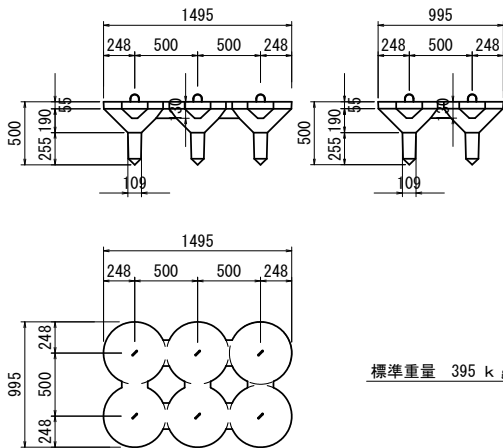
計算式 (No. 1+18.0~No. 2+12.0)
(8.3+9.4) /2 ×10.0

コマ型コンクリートブロック 標準構造図 S=1:30 (1:60)



コマブロック製品単体図 S=1:30 (1:60)

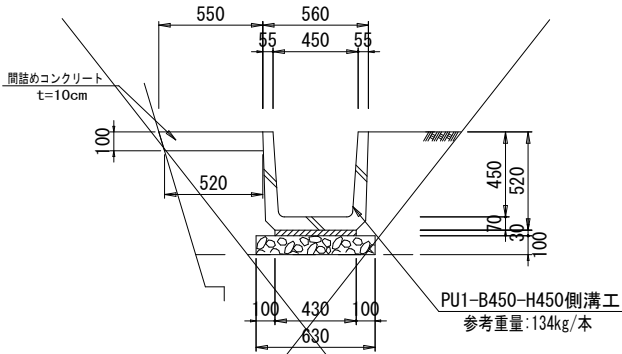
6連型



水路工構造図

PU450 (A) 型側溝工

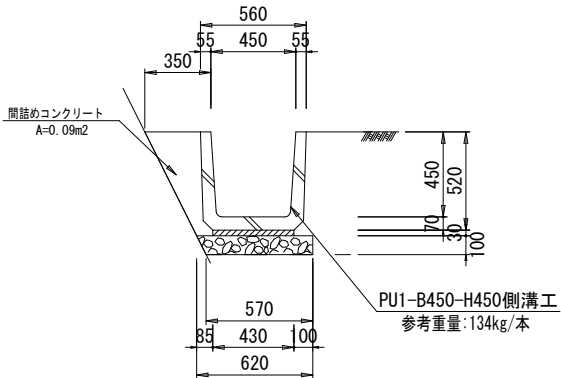
S=1:20 (1:40)



PU450 (A)		10m当り	
名称	規格	単位	数量
PU形側溝	PU1-B450-H450	本	16.67
敷モルタル	1:3	m3	0.130
基礎材	再生クラッシャーラン	m2	6.30
間詰コンクリート	18-8-25BB W/C 60%以下	m3	0.535

PU450 (B) 型側溝工

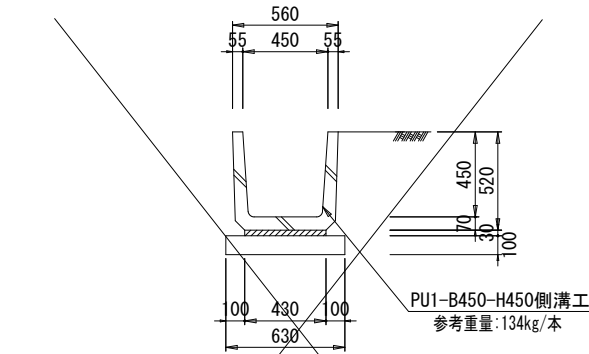
S=1:20 (1:40)



PU450 (B)		10m当り	
名称	規格	単位	数量
PU形側溝	PU1-B450-H450	本	16.67
敷モルタル	1:3	m3	0.130
基礎材	再生クラッシャーラン	m2	5.95
間詰コンクリート	18-8-25BB	m3	0.900

PU450 (C) 型側溝工

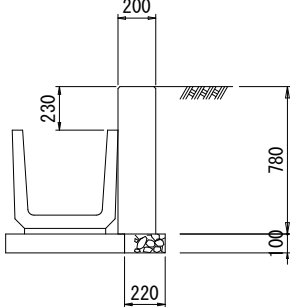
S=1:20 (1:40)



PU450 (C)		10m当り	
名称	規格	単位	数量
PU形側溝	PU1-B450-H450	本	16.67
敷モルタル	1:3	m3	0.130
基礎材	再生クラッシャーラン	m2	6.30

見切壁

S=1:10 (1:20)



材料表 (見切壁)		10m当り	
名称	規格	計算式	数量
コンクリート	18-8-25BB W/C 60%以下	0.20 × 0.78 × 10.0	1.56
型枠	無筋構造物	(0.23 + 0.78) × 10.0	10.10
基礎材	再生クラッシャーラン	0.22 × 10.0	2.20

舗装工構造図

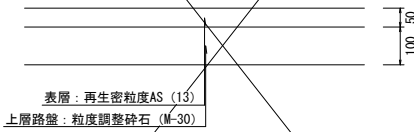
コンクリート舗装

S=1:10 (1:20)



アスファルト舗装

S=1:10 (1:20)

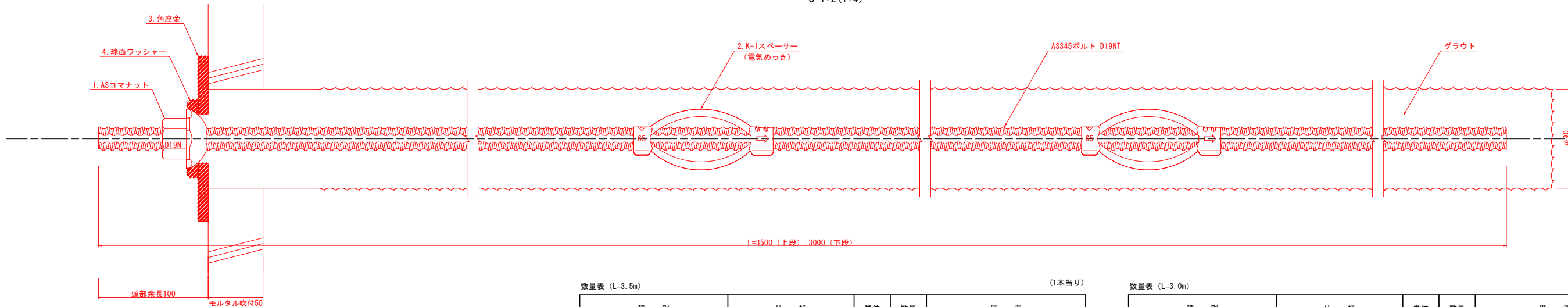


工事名	令和8年度 (県費) 川原平 (a) 急傾斜地崩壊対策工事		
図面名	擁壁基礎工構造図	縮尺	図示 () 内はA3縮小
設計年月	令和 8 年 5 月	図面番号	11-9
藤枝市都市建設部基盤整備局河川課			

仮設工構造図

鉄筋挿入工 詳細図

S=1:2(1:4)



鉄筋挿入工 部品図

S=1:2(1:4)

数量表 (L=3.5m)

(1本当り)

種 別	仕 様	単 位	数 量	備 考
AS345ボルト	D19NT	m	3.5	
ASコマナット	D19N	個	1	
K-1スパーサー	D19-65	個	2	電気めっき 最大ピッチ2.5mで最低2箇所
角座金	150×150×9 (φ45)	枚	1	
球面ワッシャー	φ70×10	個	1	

数量表 (L=3.0m)

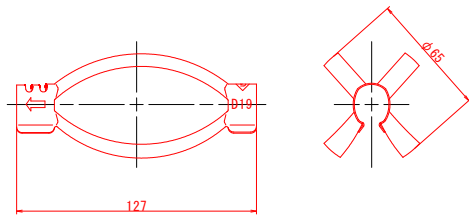
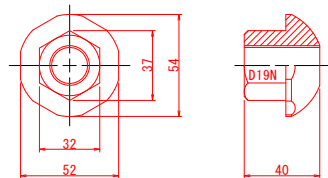
(1本当り)

種 別	仕 様	単 位	数 量	備 考
AS345ボルト	D19NT	m	3.0	
ASコマナット	D19N	個	1	
K-1スパーサー	D19-65	個	2	電気めっき 最大ピッチ2.5mで最低2箇所
角座金	150×150×9 (φ45)	枚	1	
球面ワッシャー	φ70×10	個	1	

ASコマナット D19N

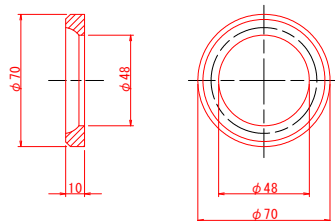
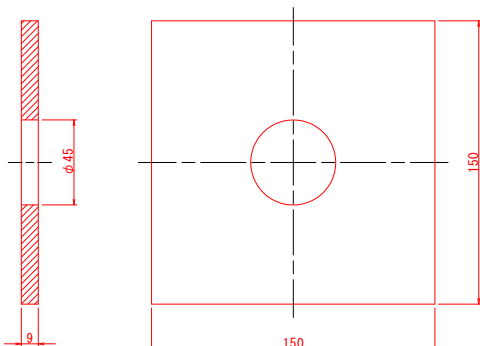
K-1スパーサー D19-65

(電気めっき)



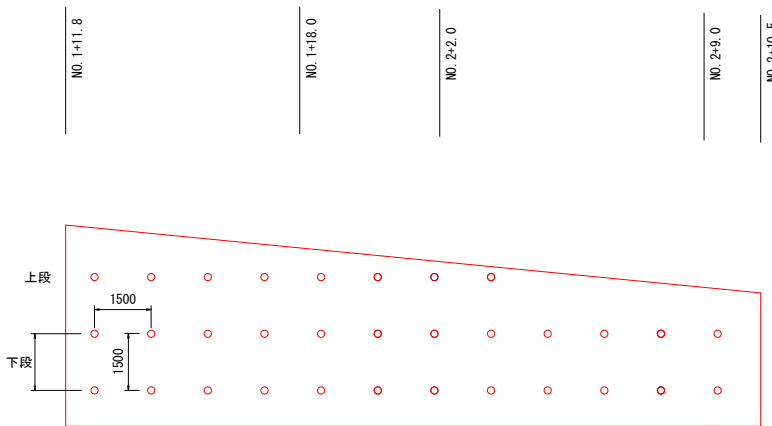
角座金

球面ワッシャー



仮設工展開図

S=1:100(1:200)



上段1段：鉄筋挿入工 (L=3.5m) N=8本
下段2段：鉄筋挿入工 (L=3.0m) N=24本
仮設モルタル吹付A=81.5m2 (CAD計測)

工 事 名	令和8年度 (県費) 川原平 (a) 急傾斜地崩壊対策工事		
図 面 名	仮設工構造図	縮 尺	図 示 () 内はA3縮小
設計年月	令和 8 年 5 月	図面番号	11-10
藤 枝 市 都 市 建 設 部 基 盤 整 備 局 河 川 課			

※ () 書きはA3縮小時

S=1:500 (1:1000)



S=1:50 (1:100)

$$V = 0.09 \times 11.3 = 1.0 \text{ m}^3$$

Technical drawing of a rectangular plate. The width is labeled as 50 and the height is labeled as 1500.

$$V = 1.5 \times 0.05 \times 8 = 0.6 \text{ m}^3$$

$$\begin{array}{c} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \quad \text{---} \quad \text{---}$$

$$V = 25 \times 0.10 = 2.5 \text{ m}^3$$

$$V=60 \times 0.09=5.4\text{m}^3$$

工事名	令和8年度（県費） 川原平（a）急傾斜地崩壊対策工事		
図面名	構造物縮小し平面図 構造物縮小し構造図	縮尺	図示 （ ）内はA3縮小
設計年月	令和 8 年 5 月	図面番号	11-11
藤枝市都市建設部基盤整備局河川課			